毎日歌壇

加藤　治郎　選

通学路「これみかん?」「ゆず?」「ゆずだこれ」
柑橘系の会話が残る　横須賀市　森久保りりか
△評▽生徒の会話を聞いている。みかんとゆずの色や香りが想像できる。甘酸っぱい感じだ。定型に言葉が乗って心地よい。

フェルナンデスベニイタダキハチドリの鳴き声にするきみの着信　ふじみ野市　雨雨雨汰
△評▽ファン・フェルナンデス諸島に生息する鳥である。音韻優位の楽しい作品だ。

漢委奴国王の韻をふみ三十一文字に光をあてる　摂津市　石少山裏裏

ブレザーは椅子にかけられ思い出はいつも夕焼け色をしていた　堺　市　初夏みどり

ブラインドを閉じてください覗きこむ千のひかりの眼がこわい　新宮市　小野小乃々

なぜだろうまだ覚えてる帰らなくなった実家の電話番号　春日井市　月夜の雨

降る雪はこころをつつむ足跡をひとつも残さないように降る　横浜市　高橋　理恵

滑舌の練習のたび枕木をどこまでも敷く　なら・にれ・なら・にれ　宇都宮市　霧島あきら

どの道をゆけば帰れるあの冬のコンビニ、ベランダ、雑多なキッチン　所沢市　神田　望

とり急ぎ大雪になりさよならを告げにきました秋篠寺に　野洲市　日比野美鈴

水原　紫苑　選

死んだやうに死なずに済んだゆる眠る咲けてしまつた桜の街で　横浜市　永永　キヌ
△評▽決して認識することのできない「死」は、桜の季節には不思議に身近である。そこへの迫り方が独特。

陶磁器のように完璧なわたくしの「黄色い線」を超えないしあわせ　横浜市　砂月　七
△評▽電車のホームのような「黄色い線」を、心はいつか超えるだろうか。

海のこと考えたくて目をとじる刹那浅瀬はそこへ来ている　東　京　石川　真琴

声色を変へずに叱るとほくから阿修羅がわたくしを見てゐる　相模原市　髙田　祥聖

軽々と死の上を飛ぶ椋鳥よ私と共に煙を見よう　東　京　藤沢　静二

一億年前と変わらぬ音を立て白木蓮は地面を叩く　ふじみ野市　雨雨雨汰

台風の近づく音でめをさまし花の名もつひとすこし俯く　横浜市　大原　香花

大人へと変わってゆけば蛞蝓のように喉に赤飯は落つ　堺　市　初夏みどり

雪山にかくした本が見つからないように幾度もしあわせと言う　横浜市　瀬生ゆう子

天国にピアノは無いといい指はいまも白鍵を求めるけれど　さいたま市　雨谷　詩穂

伊藤　一彦　選

波としてたびたび君の夢に乗り一人ラジオをお送りします　熊本市　貴田　雄介
△評▽リアルでは切ない恋をしているのだ。「君の夢」の中にデンパの波に乗って行きたいと。巧みな下の句に味わいがある。

三歳児どんな姿勢で食べたのか頭にごはん粒くっつけて　福津市　原田　冬
△評▽飾りのない、率直な歌い方が成功している。思わず微笑してしまう楽しい歌。

出会ひ求め孤独求めて集ひ来る人さまざまやひとりツアーは　東　京　大村　森美

新しいゲームが配信された日にスマホを見ながら歩く幽霊　名古屋市　外山　雪

資本主義が光り輝くニューヨークで踊る私の膝にある傷　横浜市　砂月　七

「複雑性PTSD」形さえわからぬままに名前をもらう　春日井市　月夜の雨

その人の妻や元妻とは違う距離から見えるその人のこと　堺　市　一條　智美

キーパンチ使っていたと言う母が白黒映画の女に見える　名張市　さるすべり

濡れている方が好いてるなんてこと嫌であなたをわざと突き出す　川崎市　水　面

降られたるからだが雨に沈むのをシャツはさみしく引き留めてくれる　横浜市　森山　緋紗

米川千嘉子　選

給食の茶カスと林檎の皮投げる白鳥係の陸奥懐かしき　奈　良　島　眞澄
△評▽青森県の陸奥湾に近い小学校に通っていた昔の思い出。冬飛来している白鳥に餌をやりにゆく「白鳥係」が印象的だ。

溶けぬようビニールシートを上に掛け皆で見守る横手のかまくら　館山市　鈴木　恭子
△評▽こちらは秋田県横手市の今年の風景。暖冬の中、地元の人々の苦労が思われる。

AIの回答に否はなけれども微妙に外れるこの怒りには　伊丹市　岡本　信子

船頭に卒業の児は「ありがとう御座いました」と渡しを降りゆく　香取市　嶋田　武夫

臘梅の金のつぼみを無造作に花びんにさせば妣の迫り来　成田市　神郡　一成

「あまさけ」と義母は濁らずそう呼んで麹とご飯変身させる　村上市　杉江　正子

在来種(戻す)外来種(バケツへ)これは?これは?とおいけのまわり　金沢市　竹内　一二

施設の友の住みゐし家が更地となりて好評分譲の旗の揺れをり　流山市　塙　葉子

われへ名言「憧れるのは止めましょう」あっちもこっちも憧ればかり　京都市　日下部ほのの

スーパーのお掃除ロボット充電を自分で終えて出てゆくところ　吹田市　鈴木　基充

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

こちらから投稿できます

おわびします　3月4日「ことばの五感」で、引用歌の作者の名前が「服部真理子」さんとあるのは「服部真里子」さんの誤りでした。おわびして訂正します。

おことわり　次回は19日に掲載します。